

13 星の花が降るころに

つながりの中で

予習のワーカー

銀木犀の描写

公園の銀木犀の木の下は、夏実と「私」が大好きな、一人だけの秘密の場所だった。去年の秋には、二人で木の下で花が散るのを長いこと見ていた楽しい思い出がある。銀木犀の花は、「私」と夏実の関係に重ねられて描かれている。

友人たちとの関係

夏実：「私が唯一友達を感じている人物。ちょっととしたすれ違いから、最近は疎遠な関係になつていて。「私は、去年の秋の銀木犀をたよりに歩み寄ろうとするが、素通りされてしまう。
戸部君：なにかと「わけのわからない」存在だが、夏実との関係で苦しみ傷つく「私」の心をなごませてくれた一面も……。

銀木犀のある公園に立ち寄る場面

常緑樹である銀木犀は一年中葉っぱがしげつていて思つていた「私」だが、掃除のおばさんから、銀木犀は、どんどん古い葉っぱを落とし、代わりに新しい葉っぱを生やすという話を聞く。
「私」は星形の花を土の上にぱらぱらと落とし、気持ちを新たに銀木犀の木の下をくぐつて出た。

安東みきえ

解説

① 行動、場面の展開、情景描写などに注意して、登場人物の気持ちを読み取ろう。

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① ちょっととしたすれ違いから、友人の□と疎遠になつていていた「私」は、関係を修復するために歩み寄ろうとするが、うまくいかないでいた。

② 夏実との思い出の場所である、□

た掃除のおばさんの話から、「私」は気持ちを新たにする。

1 線の読み仮名を書きなさい。

① 現実から目を背ける。

② 友人の元へ駆け寄る。

③ 唇をかみしめる。

④ くつを履く。

⑤ 黙々と作業する。

⑥ 相手の腹の内を探る。

⑦ 貧血の治療をする。

⑧ 年末の大掃除。

⑨ 廊下でばったり会う。

⑩ 暇をもてあます。

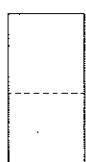
2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

① 帰宅がオソくなる。

② センパイの意見を聞く。

- (3) 家の周りがソウゾウしい。 (4) 涙をサソう。
- (5) 金曜日はジユクに行く。 (6) 花束を力ねえる。
- (7) トナリ近所の住人。 (8) 白いボウシをかぶる。
- (9) 校内のクサカリをする。 (10) もうダイジョウブです。
- ③ 次の各問い合わせ答えなさい。
- (1) 次の——線部の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。
- ① 劇でせりふを言い誤り、きまりが悪かった。
ア 申し訳なかつた イ 恥ずかしかつた
- ウ ひどくあわてた エ 後ろめたかつた
- ② 激しいかりをなだめる。
ア 機嫌をとり、甘やかす イ 注意して、反省させる
- ウ 怒つて、しかりつける エ やわらげて、しずめる
- ③ 彼には意外と繊細な一面もある。
ア やせていて弱々しい イ 頼りがいのない
- ウ 近寄りがたい エ 感情や感覚が細やかな
- ④ 弟は意地を張つてみんなを困らせた。
ア 自分の状況をかえりみないで
- イ 自分の気持ちをかくし通して
- ウ 自分の考えをあくまでも通そうとして
- エ 自分の考えをわざとごまかして
- (2) 次の——線部の語句のうち、他と異なる意味で使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夜空に星がまたたく。
イ ろうそくの火が風にまたたく。
- ウ それはまたたく間の出来事であった。
エ 夏夜にまたたく小惑星。
- (3) 次の①・②に答えなさい。
- ① 次の——線部の同じ読み方の言葉を漢字で書き分けなさい。
ア その問題はイガイにも簡単だった。
- イ 緑茶イガイの飲み物は禁止されている。
- ② ①アの類義語を漢字二字で答えなさい。
- (4) 次の——線部の語句の意味を答えなさい。
- ① 事態が十分にのみ込めず、首をかしげる。
② くつきりとした輪郭が浮かび上がる。
- (5) 次の語句を使って短文を作りなさい。
- ① あたかも
② とまどう
③ にじむ



観点1

*「星の花が降るころに」の内容を、「私」の立場から四つの場面に分けてまとめました。空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

第一の場面……回想 夏実との思い出

・いつ……
①

・どんなこと……公園で銀木犀の木の下で花が散る様子を見ていた。

第二の場面①……学校の教室

・席でぼんやりしていると、机にいきなり戸部君とべがぶつかってきた。

塾の
②

についてきてくる→相手にしない。

・隣のクラスの授業が終わる→戸部君を
③

ようにして立ち上

がり、廊下へ向かう。

第二の場面②……学校の廊下

・教室から出てきた夏実に、
④

するためには声をかける。

一瞬
⑤

・ような顔をした夏実→顔を背けて行ってしまう。

・夏実との様子を戸部君に見られたことに気づき、あまりが悪い。

⑥

をする。

読解の強化ワーク

観点2

*四つの場面での「私」の心情の変化をまとめました。空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

第一の場面……夏実と「私」

・公園の銀木犀の木の下での出来事は、二人の楽しい思い出。
・夏実とはおたがいのことを
①

だと思っていた。

第二の場面①……戸部君に対する気持ち

・サッカー部の誰かといつもふざけてじゃれ合っている→小学校のころから何も変わらない。

・なぜいつもからんでくるのか、

・今日こそ夏実と仲直りしたい。

↓戸部君に関わり合っている

③

②

第二の場面②……夏実への思い

・廊下で夏実を待っているとき

お守りみたいに持っている、銀木犀の花が入ったビニール袋をなでる。
以前のような関係にもどりたい→祈るような思いと心細さ。

・夏実に声をかけるとき

心臓がどこにあるかわかるくらい

④

している。

・夏実の反応を見て、音のないこま送りの映像のように長く感じたとき
信じられず、ショックと絶望を感じる。

第三の場面……放課後の校庭

・夏実とのことが見られたことが気がかりで、戸部君の姿を探す。

・校庭のすみっこで (7) サッカーボールをみがく戸部君を見る。

・戸部君に声をかけられるが、何を言われるかこわくて黙つている「私」。

・夏実とのことには触れず、塾の宿題の話をする戸部君。

↓戸部君の冗談に笑い、目に (8)

第四の場面……学校帰りの公園

・銀木犀のある場所へ来て、夏実との出来事を思い出す。

木の下は丸屋根の部屋のようで、守られていると信じていた。

この場所は二人だけの (9)

だつた。

・公園でおばさんに話しかけられ、銀木犀の話を聞く。

・常緑樹だから一年中葉がしげつていると思っていた。

↓実際は、春先に葉が (10) と知った。

・ビニール袋をポケットから取り出す。

中の銀木犀の花びらは小さく縮み、 (11)。

・星形の花を土の上にばらばらとまき、銀木犀の下をくぐつて出る。

色あせている 涙がにじむ 花が散る 押しのける
落ちる 黙つている とまどつた 黙々と 相手

去年の秋 ふり 秘密基地 仲直り 宿題

第三の場面……戸部君に対する気持ち

・これまで ↓いつもふざけていて (5) のかけらもないと思つ

ていた。

・ボールをみがく姿を見て ↓ボールの手入れの大切さを話す戸部君の言葉を思

い出し、彼の意志の強さを知る。

自分の考えがひどく小さく (6)

ことに思えてくる。

第四の場面……夏実との関係について

・銀木犀が、古い葉を落とし、その代わりに新しい葉を生やすと知つたとき

→人間も同じで、新しく変わらなければいけないと気づく。

・銀木犀の花を土の上にまいたとき

・夏実との別れを受け入れ、新しい人間関係を築く (8)

・銀木犀の下をくぐつて出るとき

過去のことだわりを捨て、前へ (9)

という強い気持ち。

決心 期待 織細さ 絶望 どきどき

わからない 親友 暇はない 進もう やさしさ
くだらない

13 星の花が降るころに

P 48 - 49

〔予習のワーク〕

- 1 ① 夏実 ② 銀木犀
 ③ くちびる ④ は
 ⑤ もくもく ⑥ さぐ
 ⑦ ひんけつ ⑧ おおそじ
 ⑨ ろうか ⑩ ひま
 ⑪ ひま ⑫ ひま
 ⑬ ひま ⑭ ひま
 ⑮ ひま ⑯ ひま
 ⑰ ひま ⑱ ひま
 ⑲ ひま ⑳ ひま
 2 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
 3 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

P 50 - 51

〔練習問題1〕

- (1) 今日こそは夏実と仲直りすると決意していたので、戸部君に関わり合っている暇はなかつたから。

(2) I 春の間・小さなすれ違いや誤解・別々に帰る

II おたがいに

I ウ II ウ

I ウ (5) ウ

(6) 夏実に素通りされたときのひどい顔を、戸部君に見られたのではないかと思いつま

(7) りが悪かったから。

(8) どこも強い

〔解説〕

- (1) ワーク10「1行目に「戸部君に関わり合っている暇はない……決めてきたのだ」とあるのに着目する。

(2) 続く部分から、「夏実」と「私」の関係を捉える。

(3) この物語は、「私」と夏実の友情関係に、銀木犀の花を重ねるように描かれている。

(4) 直前の「自分の心臓がどこにあるのかがはつきりわかつた」「どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸つてはくと」から考える。

- (5) 次の「騒々しさがやつと耳にもどつた」にも着目する。「私」が夏実の態度にショックを受け、放心状態であったことがわかる。

(6) 「夏実の他には友達とよびたい人なんて誰もない」にも関わらず、熱心に「外にいる友達を探している」ふりをしたのはなぜかを捉える。夏実に振り向いてもらえないかったことに傷ついていたときに、ちょうど戸部君がこちらを見ているのに気づき、「ひどい顔」を見られてしまったのではないかと思い、「きまりが悪」かつたのである。

(7) 「色が飛んでしまったみたい」「白々とした光景」に着目する。夏実に素通りされた「私」には辺りの光景が色あせて見えるのである。

P 52 - 53

〔練習問題2〕

I ア

I 公園の銀木犀の木の下

II 一人だけの秘密基地

- (1) 前書きにあるように、夏実に素通りされ、傷つき、ショックを受けた後の場面であることを前提に考える。直前の「溶け出していた魂がもう一度引っ込み」とあわせて考えると、冷水を顔に浴びることで意識がはつきりし、ショックでぼうぜんとしていた状態からようやくわれに返ることができたという意味に解釈できる。

(2) 単に戸部君の冗談が面白かったというのではなく、夏実との一件で傷ついた心が和まされたことも含めて考える。

I イ

I 学校の帰りに立ち寄った、公園の「銀木犀の木の下」のことを指している。

II 直後に書かれている。

- (4) 「首をかしげ」るは、不思議に思つたり、疑問に思つたりする様子を表す慣用句。常緑樹の「葉っぱはずつと落ちない」と思つていた「私」にとっては、「春先は、葉っぱが落ちて案外厄介なんだよ」というおばさんの話は不思議に思えたのである。

(5) 銀木犀の花と同じく、「葉っぱ」も、夏実との友情関係に重ねられている。

(6) この物語が「私」と夏実の友情関係に、銀木犀を重ねるように描かれていることを捉えると、時間の経過とともに、夏実との関係が薄れてきていくことを表していると解釈できる。

(7) 夏実との友情と思い出がつまつた銀木犀の「星形の花」をもともと拾つた場所にもどすということは、夏実との関係を白紙にもどすという意味と捉えることができる。ワーク46行目の「大丈夫、きっとなんとかやっていける」にも、これから的生活に前向きになる気持ちが表れている。

○ 読解の強化ワーク

観点1

- ① 去年の秋 ② 宿題 ③ 押しのける ④ 伸直り ⑤ とまどった
 ⑥ ふり ⑦ 黙々と ⑧ 涙がにじむ ⑨ 秘密基地 ⑩ 落ちる
 ⑪ 色あせている

解説

この文章は、時間の経過と場所によって四つのまとまりに分かれている。それぞれの場面の出来事の内容を捉える。

第一の場面 教科書 p. 96 l. 1 ~ 5

① 夏実との思い出はいつの出来事か。

第二の場面 教科書 p. 96 l. 6 ~ p. 99 l. 14

② 教科書 p. 97 l. 3 「宿題をきこうと思つて來たんだよ」とある。

③ 隣の教室の授業が終わるのを待ちかまえていた「私」は、急いで教室から出ようとし
 ているのである。

④ 練習問題1(2)と関連。「おたがいに意地を張つていたのかもしれない」と考えた「私」
 は、「今日こそは仲直りをすると決めてきた」とある。

⑤ 「私」に突然声をかけられた「夏実」は、当惑した様子を見せたが、結局顔を背けて
 行ってしまった。

⑥ 練習問題1(6)・(7)と関連。「本当は友達なんていないので」「外にいる友達を探してい
 るふうに」窓の下を眺めたのである。

第三の場面 教科書 p. 99 l. 15 ~ p. 102 l. 10

⑦ 「戸部君」がサッカーボールをみがく様子を表す言葉が入る。「黙々と」は黙つて仕事
 に精を出す様子。

⑧ 教科書 p. 102 l. 9 「戸部君」とのやりとりのあと、「涙がにじんできた」とある。

第四の場面 教科書 p. 102 l. 11 ~ p. 104 l. 5

⑨ 練習問題1(3)と練習問題2(3)と関連。「私」にとつては「夏実」との隠れ家だったの
 である。

⑩ 練習問題2(4)と関連。おばさんの言葉に「春先は、葉っぱが落ちて案外厄介なんだよ」
 とある。

⑪ 練習問題2(6)と関連。銀木犀の花びらが「小さく縮んで」「色あせている」とが象
 徵しているものについても考えてみる。

観点2

- ① 親友 ② わからない ③ 暫はない ④ どきどき
 ⑤ 繊細さ ⑥ くだらない ⑦ やさしさ ⑧ 決心
 ⑨ 進もう

解説

文章の四つの場面の展開を捉え、「私」の心情がどのように変化していくかを読み取る。

第一の場面 教科書 p. 96 l. 1 ~ 5
 ① 練習問題1(2)と関連。「夏実とは中学に上がつてもずっと親友でいようと約束をして
 いた」のである。

第二の場面 教科書 p. 96 l. 6 ~ p. 99 l. 14
 ② 子供っぽい態度の戸部君のことは、「わけがわからない」と、快く思つていなかつた。

③ 練習問題1(1)と関連。急いで「夏実」のところへ行きたいので、「からんでくる」戸
 部君になど「関わり合つてゐる暇はない」のである。

④ 練習問題1(4)と関連。「自分の心臓がどこにあるのかがはつきりわか」るくらい激しく
 胸が「どきどき」鳴つてゐることから、緊張の高まりがわかる。

第三の場面 教科書 p. 99 l. 15 ~ p. 102 l. 10
 ⑤ 観点2の第二の場面②と関連。これまで戸部君の子供じみた様子を見て「わけがわ
 からない」と感じたことから考へる。

⑥・⑦ 練習問題2(2)と関連。校庭での戸部君の様子やいつもと変わらない明るい態度か
 ら、しつかりしていて気遣いのできる人物であることを感じてゐる。

第四の場面 教科書 p. 102 l. 11 ~ p. 104 l. 5
 ⑧・⑨ 練習問題2(6)・(7)と関連。「大丈夫。きっとなんとかやっていける」から、前向
 きな気持ちになつてゐることを捉える。